



1. このクレドは、イツ・コーポレーションのチームスタッフの信条です。
私たちは、クレドに表現された価値観を自分のものとして受け入れます。そしてクレドに基づき判断・行動します。
2. 私たちのミッションは、いつでも既成概念にとらわれず、常に次のレベルあるいは、業界ナンバーワンを目指します。
と同時に前向きで、積極的なスタッフに対し、個人のスキルアップ・成長を促すため、可能な限り協力し、成長できる機会・場所を提供します。私たちは、このミッションを気楽に、楽しく実現していきます。
3. 私たちは、お客様からの視線を意識した対応のできる、見本となる会社になりたいと思っています。
私たちの接客対応、仕事内容を見て、お客様は私たちの会社を判断します。私たちは言葉使い、立ち振る舞い、顔の表情を含めてお客様から憧れられる人間です。上司は最高レベルのサポートを行う能力が得られるよう、学習の機会を提供します。
4. 上司は部下と相談できる時間を定期的にもち、それを事前に告知します。
上司の大事な仕事は、部下に教えると同時に、教えられることです。クレドを自分のものとして受け入れられない場合、上司に相談します。上司はスタッフの要望に対して、誠実に耳を傾け、そしてベストな選択に向けて一緒に考えます。ただし、ミッションに対する妥協はしません。
5. 私たちは、得意分野で一番を目指します。どのような分野でもいいので一番になります。
一番になると、仕事も楽しくなり、結果として個人の生活も潤います。そのためには、毎日、知識や技術が伸びるよう課題をつくり、時間を見つけて勉強に取り組みます。
6. 私たちは、業務のシステム化を重視します。
繰り返し行われる作業、いやだなと思う仕事、繰り返し起こる問題はないでしょうか？ そのような問題を解決するためのシステム化を提案し、文章にまとめるスタッフを私たちは大変評価します。また、仕事はどんどん増えますので、やらなくてもいい仕事を意識し、やらなくてもすむ方法も考えてみましょう。
7. 私たちは時間を守ります。遅刻する際には、必ず連絡します。
朝遅れると気分が悪い。悪い気分で一日を始める人と、いい気分で一日を始める人がいます。私たちは、いい気分を選択します。私たちは、整理整頓を重視します。毎日身の回りを整理整頓することで、私たちの心も綺麗にします。
8. 「できない」「分からない」とはじめてから諦めるのではなく、アプローチを変えて対応します。
「できるとしたら…」「分かるとしたら…」と質問を変えてみましょう。できない問題なら、そもそもはじめてから、あなたに降りかかってくるはずがありません。
9. 私たちは、自分で判断できる能力をもちます。
自分で考えないで、上司に「どうすればいいですか？」と聞くのは、新入社員のレベルです。マネージャー・店長は、「いろいろな選択肢を考えてみたが、このようにしたい。なぜならば…」という思考方法をします。
10. 会社の数字に注目しましょう。仕事をやりながら考えてみましょう。
売り上げを上げるヒントはないか？ 経費を下げるヒントはないか？ 自分の仕事を、少しくまどできる工夫はないか？ ヒントがでたら、紙に書いたり、口に出していってみましょう。すべてのヒントは、あなたにやれる能力があるから、与えられるのです。
11. 自身が成長するための最善の方法は、他人に教えることです。
人に何かを教えるには、自分がそのことを熟知していなくては教えることは出来ません。人に何かを教えるという機会を持つことで、教わる側以上に成長できます。
12. 私たちは摩擦を恐れず、意見を出し合います。
よいアイデアを生み出すためには、さまざまな視点からの意見（多重知性）が必要です。摩擦が見えない組織は、問題が潜伏しています。相手と意見が異なった場合には、「この問題は自分にとって、どのようなシグナルか」とまず客観的に考えてみます。その上で、その摩擦から何を学ぶことができるのか、第三者的に眺めてみましょう。意見が異なる際、全体を否定すると、人格批判になります。円滑なチームを運営していくため、問題だけに焦点をあててコメントするようにしましょう。
13. お互い高めあう人々には共通点があります。
裏表がないこと。喜び上手、喜ばせ上手。本人のいないところで悪口を言わないこと。フラストレーション・怒りの感情をコントロールし、自分、そして周囲の学びにつなげられること。ありがとうと頻繁にいえること。自分の非を認めて、素直に謝れること。心理ゲームの引き金を引かないこと。
14. 私たちは、チームワークを重視します。
たとえば、土曜、日曜、祝日などは忙しいことが分かっています。ですから、この日に休むことは、迷惑を他のスタッフおよびお客様にかけることになります。チームスタッフは尊敬できる友人です。友人が困っているときは、進んで協力します。その際、「何か困ったことはある？」という聞き方をします。
15. 私たちは、全ての人の幸せを実現させるための行動をとります。
それが、自分のためだけの行動であったり、他人のためだけの行動であったり、一方に偏っては実現できません。また、行動すらすらとらないということは、幸せを求めていることへと繋がります。私たちは、全ての人の幸せを実現することが目的です。